



# プログラミング教育導入に向け、 電通大と大阪市教育委員会が連携協定

1 寝屋川市

平成32年度より小学校でプログラミング教育が必修化される。大阪市は、「考える楽しさを教えるプログラミング教育が子ども達の思考力の養成に欠かせないと、昨年から研修や授業づくりなどを積極的に進めてきた。だが、既存の指導体制では難しい面もあり、初等中等教育におけるプログラミングに関する専門家がいる大阪電気通信大学の協力を仰ぎ、大阪市教育委員会と同大学との連携協定を締結。子ども達の主体的な可能性を応援することとなった。

電通大の兼宗進教授は、コン



連携協定式にて。

前列左から4人目が大石理事長と野嶋大阪市教育センター長。後列2人の間が兼宗教授

ピューター  
サイエン  
スアンプ  
ラグド(コ  
ンピュー  
タを使わ  
ずに情報



科学を教える手法)を日本に初めて紹介した方で、編集・監修したプログラミング学習用の『ドリトル』は、すでに多くの教育現場で活用されている。すでに茨城県教育委員会との連携を締結している同大学の大石利光理事長・学長は、今回の協定式で、「本学は、57年の歴史を持つ工学系の私立大学として、人間力と技術力を兼ね備えた実学を教育の柱にしています。数ある大学の中で本学を選んで頂き感謝します。超スマート社会の到来に備え、社会や地域にいかに貢献するかを模索しています」と挨拶。新たに実践教育の場として、ICT社会教育センターを設立するなど、同大学のICT領域での地域貢献に関する情報発信が注目される。